

気づき・考え・行動する力を信じて

修了アルバムの絵には、幼稚園で楽しかった思い出がたくさん描かれています。絵を見ると、その場面が思い起こせるような、心のこもった絵です。絵には、自分と一緒に遊んだ友達の姿もあります。頑張ったこと、わくわくしたこと、やり遂げたことなど、心に残っている豊かな気持ちが表れていました。丁寧に絵を仕上げると、絵の説明を一生懸命にしてくれました。達成感を味わっている満足そうな表情でした。きっと、深く心に残ることでしょう。修了アルバムの表紙の絵を描き終えた子が、サインペンの箱を片付けに来た時のことです。縦にしようか横にしようかと考えながら、かごの中に箱を揃えて置けるようにしていました。「箱が揃っていると気持ちがいいですね。ありがとう。」と、声をかけて見ていると、「みんなが置きやすいように。」と言い、次の人にも置き方を伝えて、上手く置けるように手伝っていました。

するとその隣で、紙を揃え始める子がいました。「よく気づきましたね。ありがとう。」と声をかけると、「ペンを揃えていたのを見て、他にもやったほうがいいことはあるかなと考えた。」とのことでした。自分のことだけではなく、「みんなのために。」と考えられるようになったことは、嬉しい成長です。そして、友達の動きを見ながら、目の前のことについてもう一度見直して、気づき・考え・行動したことにも感動しました。子どもが、友達のためにと思いながら行動する「小さな親切」を見逃さずに認めると、この気持ちが連動していくことが分かります。子どもが何気なくしている行動から、人のために考えている場面や、思いやりのある言動などにも改めて注目し、気付いたことを価値づけて伝えることが大切であると感じます。

さて、保護者の皆様は、これまでの園生活で、お子さんが成長したと思うことは、どのようなことですか？何かができるようになったことは見付けやすいですが、興味や関心の向け方や、心の整え方、意欲など、目に見えにくいことの中にも成長が隠れています。学級懇談会では、是非ともお子さんの成長についてお話してください。きっと、他の方の話を聞くと、我が子に置き換えてもう一度振り返り、新たな成長に気付く機会になることでしょう。

いよいよ園長だより「笑顔」も、最終号となりました。これまで、原稿を書く度に、幼児期の我が子のことを書いた日記を読み返し、笑いあり涙ありの楽しかった日々を改めて追体験できました。忙しくてゆとりがないときは、楽しい場面を見逃してしまっていたかもしれません。親としては、子育ての中で気付いたことや考えたこと、行動したことを振り返ると、今になって反省点も見えてきます。しかし、当時、精一杯考え、行動したことは、それでよかったと思うことにしています。子どもが生まれて初めて親となり、子どもと共に歩みながら、子どもの年齢と同じ年月をかけて、「親」として成長させてもらったからです。

修了式は、保護者の皆様にとりましても、「幼児期の親」としての修了式です。毎日のお弁当、送り迎え、行事への参加など、子どもに寄り添いながら支えた日々、心からの拍手を送ります。これからも、子どもたちと同様に、「笑顔」が輝く毎日になりますよう、いつまでも応援し続けてまいります。